

小坂地区

地域づくり**夢**プラン

令和6年4月～令和16年3月

「つながる心 のびゆく 小坂」

～郷土愛を育み 豊かで 安心して暮らせる 地域づくりのために～



目次

まえがき	2
地域づくり夢プラン	
1 計画策定の背景	3
2 計画策定の目的	3
3 計画期間	3
4 小坂地区の位置と現状	3～6
5 地域の資源	6～7
6 地域の課題	7～9
7 地域づくりの目標・基本方針	9～10
8 地域づくり計画の進め方	11

まえがき

平成 29 年 1 月、約 2 年間の準備・検討期間を経て「夢コミュニティ小坂」が発足しました。この地におけるコミュニティ活動のキャッチフレーズは「つながる心のびゆく小坂」。それまでの文化・体育といった公民館活動だけでなく、集落(行政区)単位では対応が困難な様々な課題についても地域全体で考え、その解消に向けた取り組みを進めようというのが設立の目的です。

この活動が始まって 10 年。この間、夢コミュニティ小坂では従来の公民館活動をベースにしながらも、地域福祉(サロン交流会の開催)や防災対策(災害ボランティア活動組織「OVG」の設立)など、地域の課題解消に向けた取り組みを進めてきました。

このほど夢コミュニティ小坂では、豊岡市の「豊岡市地域コミュニティビジョン」に基づき、小坂地域の持続可能な発展と住民の幸福を目指して、次の 10 年間の包括的な計画「小坂地区地域づくり夢プラン」(計画書)を策定しました。計画づくりに当たっては、地域の全世帯を対象にしたアンケートを実施、地域の実情を把握するとともに、住民一人ひとりの声に耳を傾けることから始めました。

私たちの小坂地区は、コウノトリに代表される豊かな自然と歴史的な背景を持ち、それぞれが独自の魅力と可能性を秘めています。しかし、アンケートでは、人口減少や少子・高齢化の急速な進展、基幹産業である農業の担い手不足など、多くの課題が山積していることが改めて浮き彫りになりました。これらの課題に対処するため、関係機関・団体の代表者などによるワークショップを開催。地域の特色を生かしながらも持続可能な発展を実現するための具体的なアイデアや行動計画などを計画書としてまとめてみました。

計画の実現には、豊岡市当局はもとより、小坂地区区長会をはじめとする地域の機関や団体、そして何より地域住民一人ひとりによる参画・支援と協働が欠かせません。次の 10 年間で、私たちの地域が直面する課題に対応し、すべての住民が誇りを持てるような地域社会を築くためにも、地域住民全員が参加し、支え合い、共に成長する地域コミュニティの形成に努めましょう。

夢コミュニティ小坂会長
井崎 和義

地域づくり夢プラン

1 計画策定の背景

豊岡市では、平成 29 年 4 月までに地区公民館が廃止され、新たに地域コミュニティ組織が設立・運営されることとなり、平成 27 年 3 月、小坂地区で「小坂地区コミュニティ協議会（仮称）設立準備会」が発足しました。この準備会では、“自分たちの地域は、自分たちの手で”を基本理念としてワークショップや先進地視察研修会、小坂地区内を町歩きしてその区の歴史・文化や課題を知る取組みなどを行いました。そして平成 29 年 1 月に地域づくり組織の設立総会を開催し、「夢コミュニティ小坂」が設立されました。

「夢コミュニティ小坂」もスタートから 8 年目を迎え公民館時代の事業を継承しつつ新しい事業も取り入れながら活動を行い、徐々に公民館事業から脱却しつつあります。これに伴い 5 年後 10 年後を見据えた計画を策定し、これまで以上に地域づくりを活発にするため、地域住民自らが率先し、より良い地域づくりを目指して活動できるよう「小坂地区地域づくり夢プラン」を提案いたします。

住民の皆様のご協力をお願いします。

2 計画策定の目的

地域の現状や課題・地域資源を調べ、豊かで活力に満ち、郷土愛を育み、安心して暮らせる地域づくりを目指します。

3 計画の期間

本計画の期間は、2024 年から 2034 年までの 10 年間としています。

なお、地域住民の要望や地域の状況の変化などにより、必要に応じて計画の見直しを行います。

4 小坂地区の概要と現状

(1) 小坂地区の概要

円山川の支流、出石川の下流に位置し、水田が広がり米作りなどの農業が盛んで、コウノトリや野鳥が飛来する自然豊かな地域である。13 集落で構成され、川を挟んで左岸 8 区（水上・長砂・鳥居・森井・丸中・大谷・三木・片間）が「山側」、右岸 5 区（伊豆・福居・嶋・田多地・安良）が「川側」と呼ばれている。また、国道 426 号線と国道 482 号線が通り交通の要衝となっている。プロ野球元阪神タイガース・元オリックスブルーウェーブ（現解説者）の能見篤史投手の出身地としても有名である。



*豊岡市ホームページ参照

地区名	小坂（おさか）	小学校	小坂小学校(児童数75人)
人口	1,661人	中学校	出石中学校区
世帯数	682世帯	認定こども園	おさかおのこども園
高齢化率	39.4%	交番	豊岡警察署 小坂駐在所
集落数	13	郵便局	嶋郵便局

*2024年4月1日現在

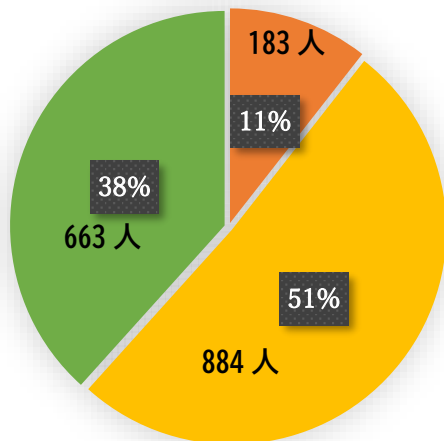
(2) 小坂地区の現状

地域の人口は、行政区単位で60人台から200人弱の区まで様々ですが、2005年に地域全体で2,083人だった人口が、2020年には1,868人となり15年間で215人減少しています。また、高齢化率は、2005年は26.9%でしたが、2020年には36.6%と大幅に増えています。10年後の2030年には、人口1,508人で高齢化率は41.4%、2040年には、人口1,232人で高齢化率は45.9%と予測されています。

子どもの人数も減少が進み、現在の小坂小学校の児童数は75人ですが、2年後の2026年には64人と予測されます。そのため25年度に小野小学校と統合される予定です。

現在も福居区は0～10歳が0人、片間区では0～7歳が0人、長砂区では0～18歳の子どもが1人となっているなど子ども人口の減少が顕著で少子高齢化が進んでいる状況です。

2023年人口構成

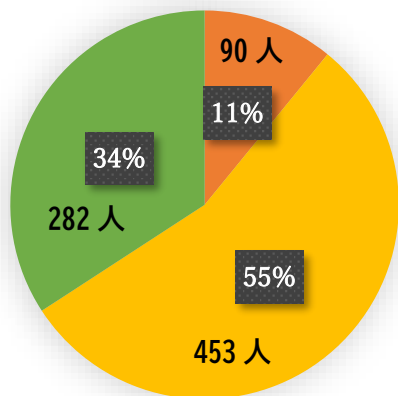


■ 14歳以下 ■ 15～64歳 ■ 65歳以上

人口の構成

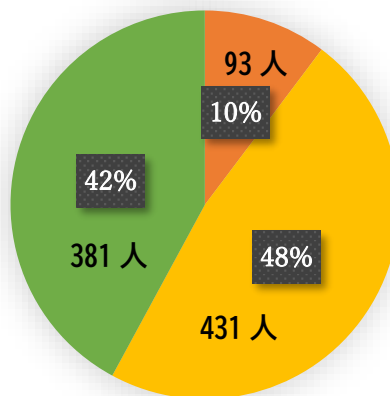
小坂地区の年齢階層別人口をみると年少人口（14歳以下）が183人（11%）、生産年齢人口（15歳～64歳）が884人（51%）、老年人口（65歳以上）が663人（38%）となっており、少子高齢化が顕著に現れています。性別で見みると、女性の方が長命で2023年3月末現在、90歳以上の人口は男性21人、女性58人となっています。

2023年男性人口構成



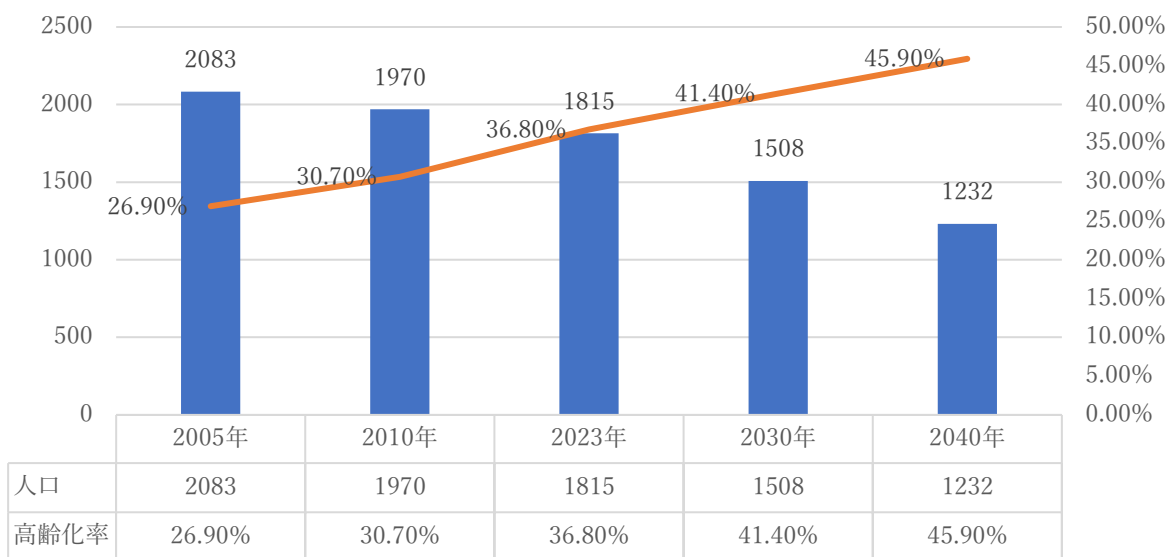
■ 14歳以下 ■ 15～64歳 ■ 65歳以上

2023年女性人口構成



■ 14歳以下 ■ 15～64歳 ■ 65歳以上

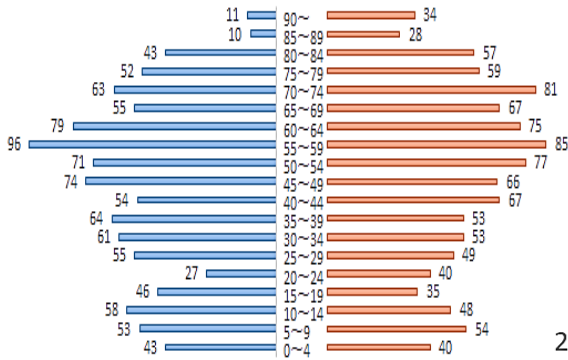
人口変動推移と高齢化率（2005年～2040年）



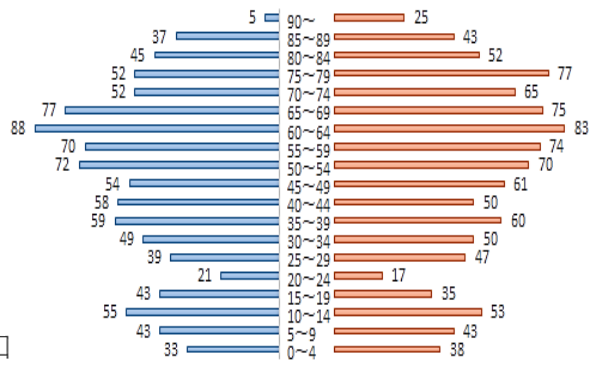
■ 人口 — 高齢化率

小坂地区人口ピラミッド (2005年～2040年)

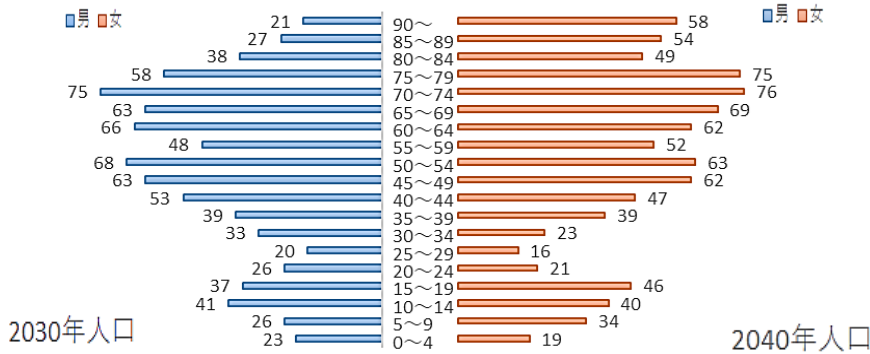
2005年人口



2010年人口

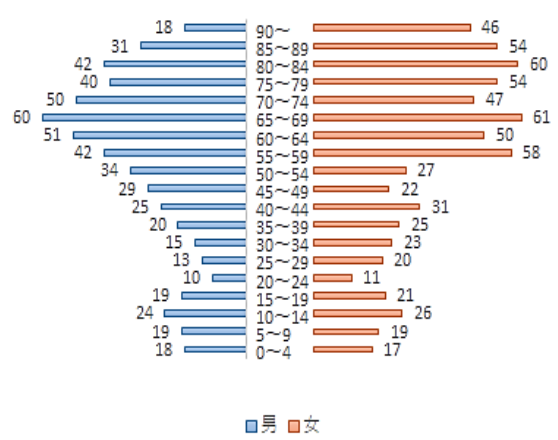
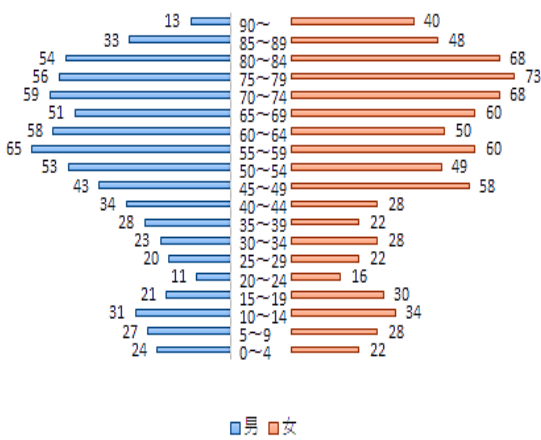


2023年人口



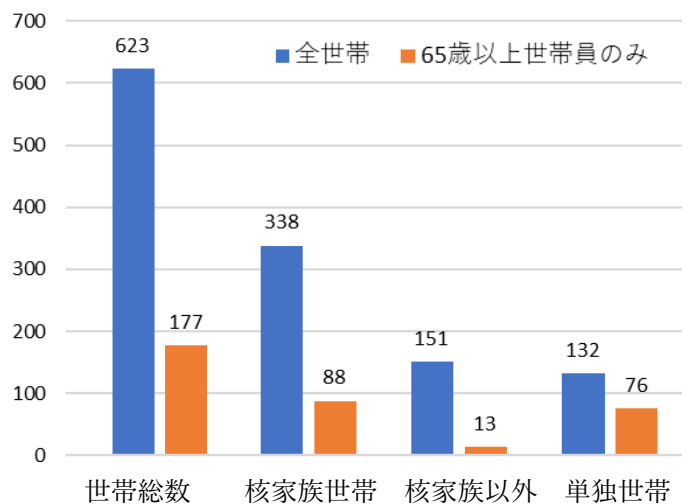
2030年人口

2040年人口



2020年国勢調査 小坂地区世帯構成

小坂地区内の世帯総数 623 世帯の 54%が核家族世帯（夫婦のみの世帯や親と未婚の子ども世帯）、24%が3世代世帯など核家族以外の世帯、21%が一人暮らしの世帯となっています。65歳以上の単独世帯が単独世帯数の58%と高齢者の一人暮らしが大きな問題となっています。



5 地域の資源

(1) 文化財・歴史的資源

豊岡市指定文化財

- ・龍谷寺 雲板 (三木区) 昭和 46 年 3 月 31 日指定 工芸品
- ・旧中和邸住宅 (三木区) 平成 27 年 3 月 26 日指定 建造物
- ・中和邸庭園 (三木区) 昭和 63 年 4 月 26 日指定 名勝
- ・木造薬師如来坐像 (福居区) 昭和 46 年 3 月 31 日指定 彫刻
- ・越智神社 (水上区)
- ・籠守神社 (片間区)
- ・善立寺 (鳥居区)
- ・狸谷古墳群 (片間区)
- ・長専寺 (鳥居区)
- ・伊豆地藏 (伊豆区)
- ・小坂神社 (森井区)
- ・箱根神社 (福居区)
- ・三柱神社 (丸中区)
- ・西宗寺 (嶋区)
- ・日吉神社 (大谷区)
- ・田多地経塚 (田多地)
- ・不動明王 (大谷区)
- ・八幡神社 (田多地・安良区)
- ・小坂神社 (三木区)
- ・田多地小谷遺跡 (安良区)

(2) 自然・祭

- ・大こぶしの木 (長砂区)
- ・伊豆城址 (伊豆区)
- ・鳥居城址 (鳥居区)
- ・福居城址 (福居区)
- ・大谷城址 (大谷区)
- ・安良城址 (安良区)
- ・三木城址 (三木区)
- ・コウノトリが羽ばたく里 (小坂全域)
- ・伊豆万灯 (伊豆区)
- ・豊かな田園風景 (小坂全域)

*その他 詳細は 2021 年 7 月 夢コミュニティ小坂発行の「小坂の地図」参照

6 地域の課題

小坂地区における現在および将来予想される課題については、以下のようなことが挙げられます。中でも人口の減少と急激な少子高齢化により、現在行われている地域活動や行事・祭事が維持継続できるのかが将来に向けた大きな課題となっています。

以下の課題の中には、地域だけでは解決でき難いものもありますが、地域でできる取組は地域で考え、住民みんなで実行し、難しいことについては行政などと連携、協働し解決する必要があります。

1) 問題だと思ふこと

- ・若者の減少。
- ・子どもの減少。
- ・後継ぎがない。
- ・行事への参加者不足。

- ・近所づきあいが無くなってきている。

2) 人口（世帯）が減少して問題だということ

- ・役員のなり手が無い。
- ・一人暮らしの家庭が増えてきている。
- ・放棄地（農地・宅地）が増えている。
- ・少子化で子ども会の行事が困難。

3) 不便だなぁということ

- ・働く場所がない。
- ・商店・病院が遠い。
- ・車がないと生活できない。
- ・交通が不便。
- ・数年に一度は大災害が起きる。
- ・除雪が困難。
- ・交流の場がない。

4) 地区の問題だということ

- ・役員（区長・農会長など）を兼務しないといけない。
- ・行事への積極的参加が期待できない。
- ・高齢者が多く日役の負担が大きい。
- ・獣害対策が困難。
- ・戸主以外の意見を取り入れる場所がない。
- ・女性が役員になりたがらない。

5) いま必要なこと

- ・声かけ活動。
- ・世代を超えた関係づくり
- ・高齢者、独居老人への援助
- ・青壮年組織の立ち上げ（意見交換の場をつくる）
- ・シルバークラブ行事。
- ・日役の共同化・縮小。
- ・地域の担い手を増やす。
- ・農業の集約・共同化。

6) コミュニティでして欲しいこと

- ・もっとみんなの意見を聞く場を持つべき。（区を離れてコミュニティで話し合いをする。）
- ・若い人の意見を聞く場所を持つ。
- ・子どもに地域の良いところを体験し考えるようなこと。

- ・都会の女性に対し、農業体験イベントの開催
- ・子どもの出産祝いに地元の特産品を贈る。
- ・小坂有志によるフェス的な楽しいイベントを開催。
- ・小学校との合同運動会。
- ・行事のPRをどンドンする。(お知らせボランティア登録で広く知らせる)
- ・コミュニティセンターまでの送迎。

7 地域づくりの目標・基本方針

<地域づくりの目標>

こんな小坂地区にしたい・・・・・・・・

自然豊かな小坂を、これからも守っていききたい
 働く場所があり、仕事に生きがいを感じる地域にしたい
 地域住民の誰もが、楽しく学び、活動できる場所にしたい
 安心して生活できる環境をつくっていききたい
 子どもからお年寄りまで、楽しく交流できる地域にしたい
 大切に守ってきた文化や伝統を後世に残し伝えたい
 いつまでも住み続けたいと思える地域にしたい

そのためには・・・・・・・・

元気で暮らすことができ、高齢者にも優しい環境のある小坂
 安心して暮らせる災害・犯罪のない小坂
 思いやりと人情味があり、世代を超えて人のつながりのある小坂
 働く場所があり、若者が地元に残って子育てできる小坂
 自分の集落の良さをしっかりと知り、郷土愛を育むことのできる小坂
 をめざします。

地域づくりのキャッチフレーズは・・・・・・・・

つながる心 のびゆく 小坂

地域づくりの主役は・・・・・・・・

小坂地区のみなさん 一人おひとりです

<各部会の基本と新たな取り組み>



1 あんしん助け合い部会

◇元気で暮らすことができ、高齢者にも優しい環境のある小坂

- (1) 高齢者を支援する方法を考える。
 - ・福祉情報紙発信（ふくしはっしん発行）
 - ・高齢者支援ボランティアグループ立ち上げ・高齢者支援の仕組みづくり
 - ・一人暮らし実態調査
 - ・買い物・通院支援、福祉タクシーの活用（ライドシェア）
- (2) 高齢者交流イベントの実施（ふれあい広場他）

◇安心して暮らせる災害・犯罪のない小坂

- (1) 災害に強いまちづくりを考える。
 - ・水害を子どもたちに伝える機会をつくる。（防災学習会の開催）
 - ・災害に弱い人を支える仕組みを考える。
（小坂災害ボランティアグループたすけあい隊 O.V.G2021 年 1 0 月立上げ）
 - ・コミュニケーションネットワークを広げて防災情報共有
 - ・コミュニティ・各区での防災グッズ・防災食の備蓄
 - ・指定避難所以外の避難場所発掘
- (2) 防犯パトロール隊の整備
- (3) 登下校時の見守り

2 人づくり部会

◇思いやりと人情味があり、世代を超えて人のつながりのある小坂

- (1) 地域の交流の機会を充実させる。（地域の活性化を図る）
 - ・コミュニティ事業の見直し・充実
 - ・地域交流の場づくり
- (2) あいさつ運動の強化



3 里おこし部会

◇働く場所があり、若者が地元に残って子育てできる小坂

- (1) 農業を支援し、耕作放棄地など問題解決を考える。
 - ・子どもの農業体験を支援し、農業に関心を持つ子を育てる。（農業イベント開催）
 - ・農産物（特産品）直売所の開設・運営（無人野菜販売）



- ・広域農営グループなどと協力し、草刈イベントを開催
- ・畑のレンタル
- ・儲かる農業を考える。(勉強会)

- (2) 働く場所を紹介する。
- (3) 行政と協働で婚活を行う。

◇自分の集落の良さをしっかりと知り、郷土愛を育むことのできる小坂

- (1) 子どもに小坂の歴史を伝える機会をつくる。(小坂の歴史を学ぶ教室の開催)
- (2) ふるさと巡りを開催(まち歩き実施・小坂の地図 2021年7月発行)

8 取り組みロードマップ

地域づくりキャッチフレーズ「つながる心 のびゆく 小坂」を実現するために地域づくりワークショップをおこない、参加した地域住民の声から地域課題を見つけ出し、その課題を克服するためにコミュニティでどんな取り組みができるのか話し合いました。そしてコミュニティの地域づくり目標と基本方針を実現するための新たな取り組みを検討し、提案します。

部会	内 容	すぐ	3~5年	5年以降	目指す目標
あんしん助けあい部会	たすけあい隊 O.V.G との連携 ・協働(継続)	→			有事の際に行動する時の判断に関する情報が増え、人的被害を最小限に抑えることができる。
	防災学習会・防災ワークショップの開催(継続)	→			
	コミュニケーションネットワークを広げて防災情報共有 NEW	●			
	コミュニティ・各区での防災グッズ・防災食の備蓄 NEW	●			
	指定避難所以外の避難場所発掘 NEW		●		地域にある資源を最大限活用しながら、楽しく・不便なく小坂地区で暮らしている人が増えている。
	高齢者交流イベントの実施(継続)	見直ししながら継続 →			
	福祉情報紙発行(ふくしはっしん) NEW	●			
	高齢者支援ボランティア	●			
	一人暮らし実態調査 NEW		●		
	買い物・通院支援、福祉タクシーの活用(ライドシェア) NEW		●		犯罪の無い、安全な地域づくり。
	防犯パトロール隊の整備		●		
登下校時の見守り	●				

* ●は検討、調査

部 会	内 容	すぐ	3～5年	5年以降	目指す目標
人づくり部会	小坂地区運動会（継続）		事業内容変更 or 見直し継続		誰もが気軽に集えるコミュニティ世代を超えてつながりのあるまちづくり。
	健康ウォーキング（継続）		見直しながら継続		
	各コミュニティ教室（継続）		見直しながら継続		
	映画上映会（継続）		見直しながら継続		
	ゲーム大会（継続）		見直しながら継続		
	小坂っ子サークル（継続）		見直しながら継続		
	あいさつ運動の励行				

* ●は検討、調査

部 会	内 容	すぐ	3～5年	5年以降	目指す目標
里おこし部会	校区民文化祭（継続）		見直しながら継続		小坂における農業の関わりしろが広がり、農業にかかわる住民が増えている。
	子ども農業体験イベント NEW				
	農産物直売所の開設・運営 （無人野菜販売） NEW				
	広域農営グループなどと協力し、 草刈イベント等を開催 NEW				
	畑のレンタル NEW				
	儲かる農業を考える（勉強会） NEW				生まれ育った故郷の良さを知り、郷土愛を育むことができる。
	子どもに小坂の歴史を伝える				
	働く場所を紹介する 労働者募集				
	行政と協働で婚活を行う				
ふるさと巡りを開催 健康ウォーキングと共催		見直しながら継続			

* ●は検討、調査

9 地域づくり計画の進め方

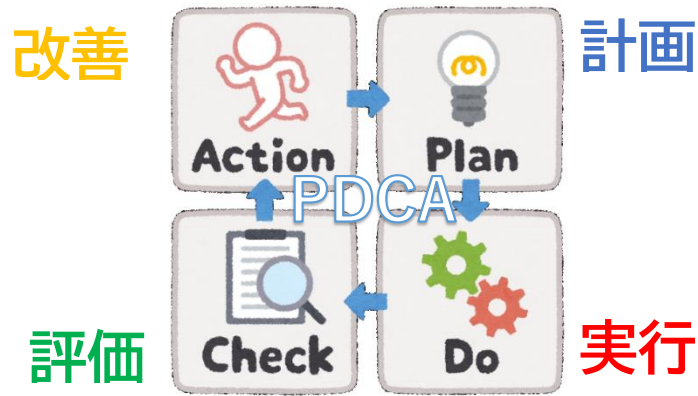
地域づくり夢プランを基本に、各部会・役員会で事業を考え実行し、事業の効果等を把握するPDCAサイクルにより展開していきます。

Plan（計画） 小坂地区のまちづくりに必要な事業を計画します。

Do（実行） 計画したことを実行します。

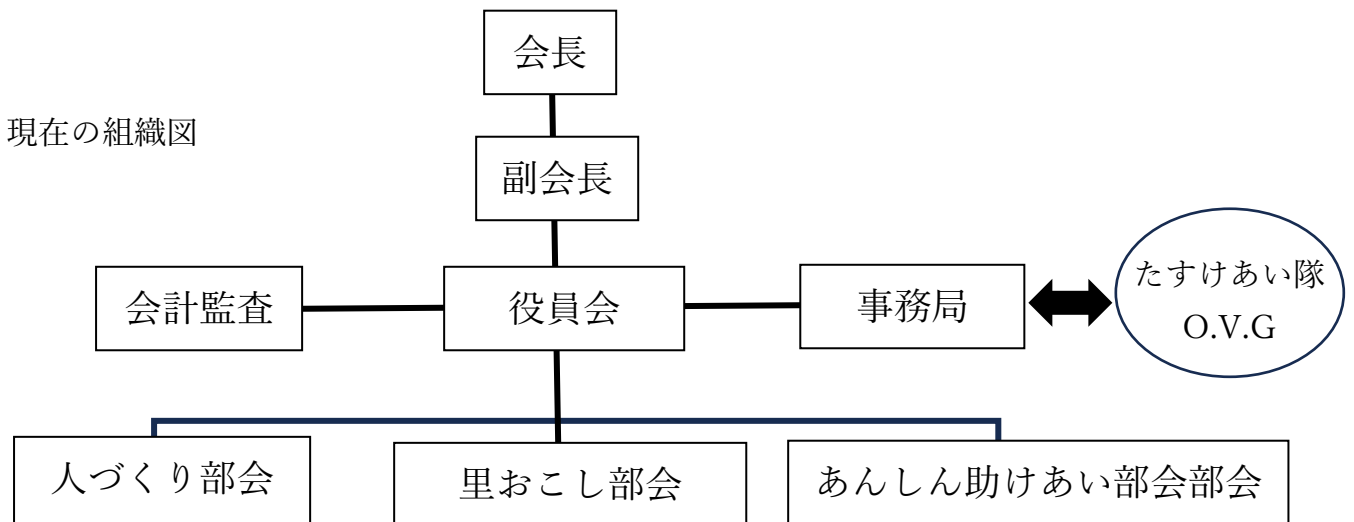
Check(評価) 実行した結果を「良い」「悪い」の判断をします。

Action(改善) 評価をもとに、「継続」「中止」「手直し」を判断し、次回に繋がります。



10 今後の課題

夢コミュニティ小坂の組織図は下記のとおりです。各区からの選出のみの構成となっており、区から選出されなければ部会員になれず、役員会や部会推薦での人材確保はできない状況です。現在は、各区からの選出のみとなっていますが、必要な人材を広く地区内から選考できるよう規約の変更などを検討し、地域課題の解決や資源の有効活用などに繋げられるような仕組みづくりが必要です。



将来の組織図（部会イメージ）

